

ADB, アフガニスタン難民の社会復帰を目的とする道路修復 事業に貧困削減日本基金より 1500 万ドルの無償資金供与

(2002年10月4日、マニラ、フィリピン) – アジア開発銀行 (ADB) は、アフガニスタンの内戦で破壊されたカンダハール・スピンボルダック間約 100 キロメートルの道路 (アフガニスタンと隣国を結ぶ幹線道路の一つ) の主要部分を修復するプロジェクトに 1,500 万ドルの無償資金 (グラント) を供与することを承認した。

本プロジェクトは、道路の修復に加え、帰還難民と国内避難民 (復員兵士も含む) を対象として道路建設への参加及びその他の収入取得活動のための職業訓練、難民の子女及び成人に対する基礎教育への支援、基礎的保健サービス及びマイクロクレジット (少額融資) 等様々なサービスを提供する。本グラントは、ADB に設けられた [貧困削減日本基金 \(JFPR\)](#) から供与される。

ADB 南アジア局岩崎恵弘局長は、「本件は、経済復興の為に不可欠な道路修復事業を通じ、貧困削減を目指した新しい試みで、難民の帰還、定住化、社会への復帰を支援する持続可能なアプローチを模索するものです」と述べている。

本プロジェクトでは、カンダハール・スピンボルダック間の主要部分 (このうち 33 キロメートルは再工事を要する) と 2 箇所の主要な橋の再工事を行う。当該事業により、約 1 万人の帰還難民・国内避難民に雇用を提供できる見込みである。

現在スピンボルダックにはパキスタンから毎日約 1,000 人の難民が帰還している。既にアフガニスタンの南部ルートから帰還した難民のうち 20 万人以上がカンダハール市北部及び西部に定住している。これに加え、旱魃の被害を受けた南西部及び戦闘下にあった北部からの国内避難民の流入もあり、難民全体の数は増加傾向にある。東部ルートからの帰還難民の多くがカブールに流入していることもあり、難民が地方に帰るまで、カンダハール近くに一時的に定住するために仕事を提供することは重要である。

本年初頭から現在に至るまで 170 万人以上の難民がアフガニスタンに帰還した。本年末までには、合計 200 万人が帰還する見込みである。

具体的には、本プロジェクトは、道路修復事業に加え、以下の項目をカバーする。

- **トレーニング**：道路及び関連施設の建設のためのトレーニングに加え、収入及びマイクロクレジット（少額融資）を得るための活動、栄養摂取・育児等に関するトレーニングを提供する。合計1万2千人から1万3千人がトレーニングの対象になる。（建設関連で10,000人、収入・少額融資関連で1,500人から2,000人、及び栄養摂取・育児関連で1,500人から2,000人）。
- **教育**：帰国難民・国内避難民の子女に対する教育支援及び成人へ基礎教育を提供する。その為にコミュニティーが運営する学校の建設、教育施設の修復、教科書・教材、制服等の提供、教師への支援が行われる。
- **保健**：地域ヘルス・ワーカー約400人による基礎保健教育・サービス、医療品、その他の医療支援の提供、及び保健関連施設の建設・修復を行う。
- **マイクロクレジット**：NGO等を通じてのマイクロクレジットの提供と運用への支援を行う。

本プロジェクトは、難民への支援に加え、国際貿易の促進、道路及び橋の建設・復旧・維持に関する地元コントラクターの能力開発等に寄与する。

道路工事開始は本年10月、完了は2003年末の予定。社会サービスの提供を含む事業全体の完了は開始後30ヶ月後の予定。アフガニスタン財務省の援助調整庁が事業実施の調整役を担い、主要実施機関は公共事業省になる。

貧困削減日本基金は、日本政府の拠出（9,000万ドル相当）により2000年5月に設立され、その後（2001年から2002年にかけて）総額1億5,500万ドル相当の追加拠出が行われ、本年5月のADB総会時に日本政府から更に5,000万ドル相当の拠出を行う旨の表明がなされている。当基金の目的は、貧困削減のための活動への支援で、特に新しい発想やアプローチを奨励している。当基金により、アフガニスタンの教育分野復興に 400万ドルの無償資金 を供与することを先月発表している。

Media Inquiries Only

ADB NR/02
Ian Gill
Telephone: (632) 632-5890
Email: igill@adb.org

Electronic versions of ADB news releases:

Internet site: <http://www.adb.org>

